



30年間探し続けていた

## 迷子の迷子のお地蔵さん

やまじ たけひこ  
山地 武彦 (友の会会員)

徳島市東吉野町3丁目、と言うより川内方面から吉野川大橋を渡り、沖洲方面へ左折したすぐ右手の墓地の奥に見える<sup>ちんじゆ</sup>鎮守の森と言った方が分かりやすい。この森が熊野新宮社である。

その境内にある石碑の由緒記によれば、「正徳5年(1715)頃 城下の鬼門に当るこの地に 城下の鎮護として<sup>くまのしんぐうしゃ</sup>熊野権現と<sup>くまのこんげん</sup>廣福寺が建立されたものと思われる」さらに、「正確な記録は伝わってはいないが、明治維新廃寺となった廣福寺が隣に有り この寺の<sup>ぼんしょう</sup>梵鐘が明治12年(1879)4月6日にイギリ



図1. 安宅橋付近でまつられているお地蔵さん



図2. 赤い頭巾をかぶり、地元の人に大切にされていることがうかがえるお地蔵さん

スに渡り 今もノッチンガム市の博物館に陳列されている」と刻字されている。

梵鐘には次の銘があるという。「阿波州名東郡下助任大岡 阿育王山廣福精舎 萬嵯峻 敬記正徳五未歳 皐月穀日」。この熊野権現は、明治3年(1870)「熊野新宮社」と改称されている。

明治新政府が、寺社領を没収したのが、明治4年(1871)1月であるから、この頃に廃寺となったのではなかろうか。

廣福寺の位置は、熊野新宮社に隣接していたことしか判っていないが、墓地の位置から見て熊野新宮社の東側(現在は住宅地)にあったものと思われる。建設省徳島工事事務所発行の「吉野川百年史」によると、この付近の堤防は助任築堤として、明治45(1912)年6月から大正4年(1915)3月にかけて築かれている。

藩政期に築かれた旧堤防は、現在のグラウンドの北川水辺から20~30m先の川中にある。干潮時に吉野川大橋の歩道から下流の川を見ると、旧堤防と宮島渡跡が見える。

言い伝えによると、この廣福寺の近くに、ずっと昔、お地蔵さんがあったが、「いつの頃なのか、どこへ行ったのか、迷子になった」と言われてきた。

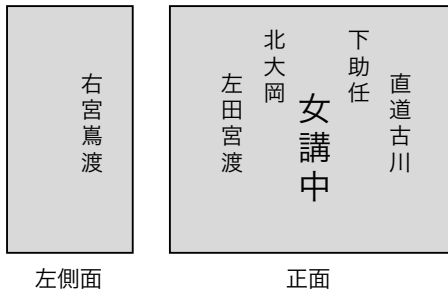


図3. 発見された地蔵の台座に刻まれた銘文

お地蔵さんの鎮座されていた場所も、お地蔵さんがどんなお姿だったのかも、誰も知らず、「迷子のお地蔵さん」になってしまっていた。この言い伝えを聞いて30余年、折をみて訪ね歩くものの確認を得ることはなかった。

昨年（2009年）に入って、吉野川下流域の本流、支流付近の地蔵尊の調査をしていて、30年来探し続けていたお地蔵さんに巡り会うことができた（図1、2）。

確たる証拠は、その台座に刻まれた銘文にある（図3）。この碑文を明治44年（1911）発行「徳島市街地図」と照合すると、

- (1) 直道古川 現在の堤防の側道付近を古川（当時両岸とも古川）に真っ直ぐな道がある。
- (2) 北大岡 現在老健施設「白寿園」のある場所は、吉野川へ抜ける堀川で、荷船の出入りや藩主が御座船に乗る際お城から小舟で往来する通路で、「大岡の高橋」と呼ばれた橋桁の高くした架橋があり、この下を船が往来していた。
- (3) 左田宮渡 この堀川を通り、現在ある市営住宅横まで残っている大岡川を逆上り、助任川を経て田宮川へ入る三ツ合橋の処が田宮渡しであった。

(4) 右宮島渡 前述したように大岡の北に宮島渡跡が残っている。

この碑文の検証から、このお地蔵さんは、白寿園西側の墓地の北側歩道、熊野新宮社の真北あたりにあったと考証した。

次に迷子になった時期。「四国三郎物語」（建設省徳島工事事務所発行）に改修工事で移転した地蔵として安宅橋北の地蔵が紹介されている。それが、この地蔵である。大正2年（1933）に現在地に移されたとある。

その場所は、住吉島川に面した徳島市城東町1丁目の個人所有の屋敷内である。地蔵尊は、地元の木材会社と鋳金会社から寄贈された地蔵堂に安置されている。

地元民の信仰が厚く、毎日香花が絶えたことがない。毎年8月23～24日の両日、地蔵盆が開催されている。

迷子のお地蔵さんの話を聞いて30年、<sup>ようや</sup>漸く参拝することを味わった。

ちなみにこのお地蔵さんには、文政8年（1852）の年号が刻まれている。誕生してから185年、現在地へ<sup>せんざ</sup>遷座されて95年、もうすっかり安宅の子になったに違いない。

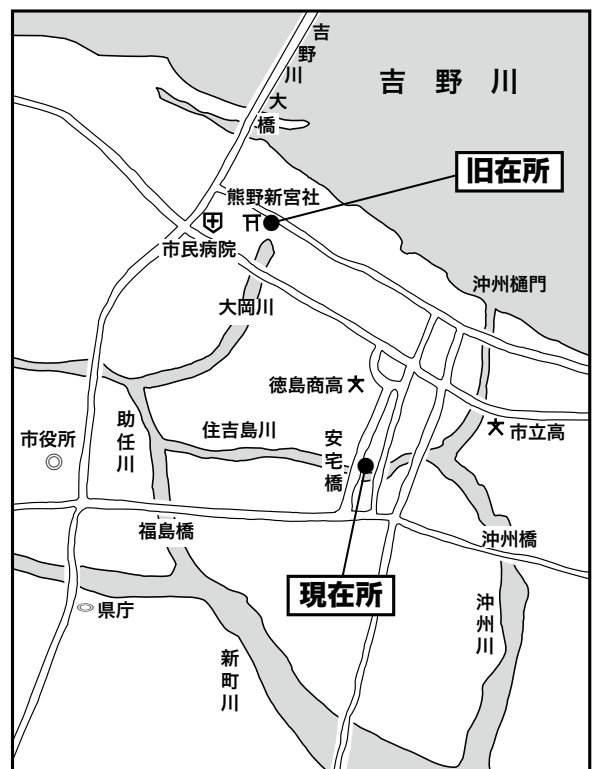
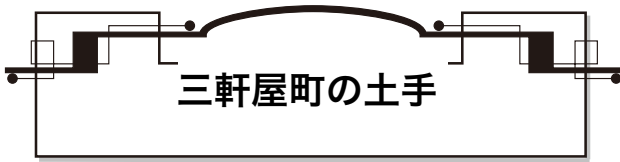


図4. 地蔵の旧在所と現在所





徳島市<sup>さんげんや</sup>三軒屋町は、大松川と<sup>たたら</sup>多々羅川に囲まれている土地である。人々は水害から身を守るために、さまざまな苦勞をしたそうである。

昔は、大松川から潮が入って来るので、三軒屋町周辺は米のとれる量も少なく、芋の栽培<sup>いも</sup>でさえもうひとつであったらしい。また、洗濯物も潮を含む水のため、白いものはすぐに黄ばんでしまったと聞く。川の土手もよく切れて、古い<sup>たたみ</sup>畳などを土手の破れた所にあてがって、水を防いだこともあったそうである。

昭和 11 年 (1936) に大松川と多々羅川の合流地点の水門 (ゆとう) を改修し、塩害を少しでも減らそうとの努力がなされた。

昭和 30 年 (1955) には、大松川の東南を流れる<sup>いっせんか</sup>勝浦川一川<sup>しゅんこう</sup>化工事が竣工され、この時から大松川からの水害は治まったと聞く。

現在、三軒屋町西にある水神社の裏に、ただ土を盛り上げただけの簡単な土手が残っており、その上に 14cm 角で、高さ 50cm の石塔が建っている (図 1)。大谷町に向かう面に「0 | 14」(図 2)、三軒屋方面に「土盛」と刻まれた文字が見える (図 3)。また、三軒屋下分にも土手の一部が残っており、この上にも「0 | 10」「土盛」と記された石塔が立っている。これらの石塔は、この位置よりも土手を高くしてはいけないという印であったと聞く。



図 1. 水神社裏の土手と石塔



図 2. 「0 | 14」と石塔に刻まれた文字

残っている土手は、西に位置する多々羅川の<sup>はんらん</sup>氾濫から三軒屋町を守るために築いたものだが、東側を流れる大松川が洪水を起こした場合は、この土手が高すぎると三軒屋町に水が溜まり、かえって被害が大きくなったのだそうである。

現在では、かつてのような水害もなくなり、大松川の西側に国道 55 号線も通されているので、二つの川に囲まれた三軒屋町の大変な状況は<sup>しの</sup>偲びにくくなっている。けれども、土手の存在や、その上に立てられた石塔の意味は、三軒屋町の地域の歴史を語るものとして忘れないようにしたい。

おおすぎ ようこ  
大杉 洋子 (友の会会長)



図 3. 「土盛」と石塔に刻まれた文字

友の会行事報告

いも餅ときなこをつくろう

- ◎日 時 2月28日(日) 10:00～12:00
- ◎場 所 博物館実習室
- ◎担 当 伊勢 ひとみ・南部 洋子(友の会役員)  
小川 まこと・庄武 憲子(博物館学芸員)
- ◎参加者 32名
- ◎概 要

いも餅の作り方をひと通り説明したあと、さっそく作業に取り掛かりました。まずは、煎った大豆を石臼で挽いて、きな粉を作ることから始めました。前もって煎っておいた大豆の香ばしい匂いが部屋中に漂っています。小さい子どもたちには、石臼を回すのに力が必要で苦戦している様子でした。「石臼で大豆を挽くときな粉になる」ということが、新鮮な驚きだったことでしょう。きな粉が挽けた頃、もち粉とさつまいもも蒸し上がりました。ボウルに取り出し、潰して丸めるのですが、最初は生地が柔らかすぎたのか、手にくっついてやりづらかったようです。二回目に蒸し上がった餅の方は、生地になきな粉を混ぜ込んだので、比較的しっかりして上手に丸めることが出来たようです。大きさも揃いで、中には一口饅頭みたいなものもありましたが、これも手作りならではでしょう。皆さんで二個ずつおいしく戴きました。

挽きたてのきな粉の甘さ、香ばしさを体験できた良い機会でした。

(伊勢 ひとみ 友の会役員)



Voic<sup>e</sup> 参加者の声

◎佐竹 信祐

この「いも餅ときなこをつくろう」に参加して、いい経験ができたと思います。石臼で、きな粉を作り、いも餅をついたりしました。ぼくは、石臼を使ったことがなかったので、楽しかったです。餅にあんを入れるのに、餅がやわらかかったです。いも餅は、ちょっと甘さひかえめでおいしかったです。とてもいい経験になって良かったです。

◎泉 加代子

はじめに、フライパンで大豆を煎っていた。途中から大豆の香ばしいにおいがしてきた。その大豆をすり臼で粉末にした。大豆を2個入れてすり、粉末が少しずつしかできなかった。昔の人はこうして手間をかけて作って、大変だったのだなと思った。

その後、もち粉といもを蒸してつき、あんを入れていも餅を作った。作ったすぐのきなこであったので、甘くてとてもおいしかった。

昔、私の家にも大きなすり臼があり、なつかしく







思いました。ありがとうございました。

○三輪 弘昭  
みわ ひろあき

この行事に参加させていただき、ありがとうございました。きなこ作りでは、30年前に小学生のときに、石臼で挽いたことを思い出しました。

いも餅作りでは、会員の方、学芸員の方と一緒に作り、おいしく食べることができました。いも餅、家で作ってみたいと思います。

QアンドA：ちょっとおたずねします

**?** 植えてはいけない植物について

昨年の伊島の観察会できれいな花が咲いていました。でもそれは栽培してはいけない植物とのことだったのですが、詳しく教えてください。  
(友の会会員 伊勢 ひとみさん)

2009年6月7日開催の博物館普及行事「伊島を歩こう」の中のできごとですね。阿南市伊島の漁港近くに黄色のきれいな花が群生していました。オオ



オオキンケイギクが咲き乱れる道路

キンケイギクという植物で、北アメリカ原産の外来種です。これが植えてはいけない植物の一つです。

オオキンケイギクは花が群生して咲ききれいなので、道路横に種子を蒔いて花壇のようにして作られていました。文化の森の前の道路にも春に咲いていますが、今では誰も植えていないのに、ずっと残って生き続けています。花は観賞価値がありますが、とても強い植物なので一旦入り込むとなかなか駆除できず、生態系に影響を与えてしまいます。

国はこうした外来種のうちでも生態系への影響、人の生命・身体への影響、農林水産業への影響などが大きい侵略的外来種を特定外来種に指定し対策を行うことにしました。移動や飼育・栽培などの制限を行うために2004年に「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（外来生物法）」を制定しました。現在、植物ではオオキンケイギクをはじめとしてナルトサワギクやアゾラ・クリスタータなどの12種（表）が特定外来生物に指定されています。これらについては許可無く栽培することはできませんし、生きたまま移動させることもで

徳島県の特定外来種の状況

和名	科	学名	分布状況	備考
オオキンケイギク	キク	Coreopsis lanceolata L.	路傍等に多い	
ナルトサワギク	キク	Senecio madagascariensis Poir.	鳴門市、徳島市、阿南市、小松島市など	1976年に確認(木下ら、1999)
オオカワデシヤ	ゴマノハグサ	Veronica anagallis-aquatica L.	吉野川など	2006年以前
ナガエツルノゲイトウ	ヒユ	Alternanthera philoxeroides (Mart.) Griseb.	旧吉野川で定着が確認されている	
アレチウリ	ウリ	Sicyos angulatus L.	吉野川の河川敷に多い	1975年確認(阿部、1990)
オオフサモ	アリノトウグサ	Myriophyllum aquaticum (Vell.) Veldc.	阿南市、鳴門市ほか	1976年確認(阿部、1990)
ポタンウキクサ	サトイモ	Pistia stratiotes L.	吉野川水系下流部に多い	1983年確認(阿部、1990)
アゾラ・クリスタータ	アカウキクサ	Azolla cristata Kaulf.	鳴門市	鈴木(2001)
ミズヒマワリ	キク	Gymnocoronis spilanthoides DC.	—	
オオハンゴンソウ	キク	Rudbeckia laciniata L.	—	
ブラジルチドメグサ	セリ	Hydrocotyle ranunculoides L.f.	—	
スパルティナ・アングリカ	イネ	Spartina anglica C.E. Hubb.	—	

きません。しかし、法律の周知ができていないせいか、こうしたものが庭で栽培されている場合もあります。そのいくつかを紹介しましょう。

### ■オオキンケイギク



北アメリカ原産の多年草で、5～6月に黄色の花を多数つけます。あまりにも普通にあるので植えてはいけない植物という認識は薄く、しばしば庭に植えてあるのを見かけます。種子でさかんに増えるのに加えて、株は何年も生き続けますのでいったん入り込むとなかなか駆除できない植物です。

### ■ナルトサワギク



南アフリカ原産の多年草。日本では最初に鳴門で見つかりましたのでその名が付きませんが、正体が分かるまで20年近くかかりました。

オーストラリアなどで<sup>もうれつ</sup>猛烈に繁殖し、牛や羊の成長を<sup>そがい</sup>阻害することから、多額の費用を投入し駆除されています。タネ(実)がタンポポのように風で飛びますので、県内でも猛烈な勢いで分布を広げています。

### ■オオカワヂシャ



ヨーロッパからアジア北部原産の多年草で、河川などの水辺に生育します。よく似たカワヂシャは在来種で、環境省や徳島県で準絶滅危惧に指定されている希少種です。近畿地方はカワヂシャがオオカワヂシャに置き換わったところが多いようです。

特定外来生物には釣り人には人気のブルーギルやブラックバス(オオクチバス)が含まれていますので、これを釣って生きたまま家に持って帰ると法律違反となります。また、ウシガエル(食用ガエル)も特定外来種ですので、あの大きなオタマジャクシを子供がすくって家に持って帰って育てるということも、厳密に言えば違反となり処罰の対象となります。

特定外来種のやっかいさは、これを見つけたからといって簡単に駆除はできないというところにあります。外来種の場合は侵入初期に駆除してしまうのが有効です。植物の場合は抜き去って除去してしまえば良いのですが、法律で生きたままの移動ができないという決まりですので、種子がついている場合は抜いたものを簡単に移動することができません。



花がきれいなので栽培されていたケシ



## 平成 22 年度総会の報告



路傍に生えていたアツミゲシ（上）とその葉の付け根（下）

そのため、対策がとられず放置されている例が見られます。

この他にも麻薬の原料となるケシやアツミゲシ、<sup>たいま</sup>大麻も栽培が禁止されています。

大麻は意図的に栽培していない限り県内では見られませんが、違法なケシやアツミゲシは、ヒナゲシなど栽培してもよいものとよく似ていますので、間違えて栽培したり、種子をゆずりあったりしている例がみられます。筆者が今年タンポポ調査で県内を走り回ったところ、ケシやアツミゲシの生育地を20カ所以上も見つけて県の薬務課に通報しました。

栽培してはいけないケシ属の代表であるケシとアツミゲシは葉が茎を抱く特徴がありますので、この特徴さえ覚えれば比較的簡単に判別することができます。

おがわ まこと  
小川 誠（植物担当学芸員）

平成 22 年度友の会総会が、4 月 29 日（木）午後 1 時半より、博物館講座室にて開催されました。21 年度の事業報告・決算報告並びに 22 年度の事業計画・予算案について審議が行われ、承認されました。

今年度は、キャンプ・一泊研修と、宿泊を伴う行事を 2 回計画しています。また、大勢の方に参加していただける地引き網も計画していますので、ふるってご参加ください。

## 1. 平成 22 年度友の会行事（予定）

## (1) 企画展「ヒマラヤ」展示解説（終了）

実施日：4 月 29 日（木）

場 所：博物館企画展示室

## (2) 「こどもの日フェスティバル」への参加（終了）

—折紙・しおり作りと会員勧誘—

実施日：5 月 5 日（水）

場 所：博物館常設展示室

## 平成 22 年度 友の会役員

役職名	氏名	備考
会長	大杉 洋子	
副会長	行成 正昭	
	鳥居 喬	
幹 事	大原 賢二	徳島県立博物館長
	和田 賢次	
	多田 精介	
	澤 祥二郎	
監 査	松家 京子	
	伊勢ひとみ	
	石尾 和仁	
	南部 洋子	

役職名	氏名	備考
事務局長	高島 芳弘	副館長
事務局員	森 稔	普及課長
	向原 敬夫	普及課主任
	佐藤 陽一	自然課長
	小川 誠	専門学芸員
	大橋 俊雄	専門学芸員



総会風景

(3) チリモンをさがそう

実施日：6月20日(日)

場 所：博物館実習室

(4) キャンプで自然体験

実施日：7月3日(土)・4日(日)

場 所：佐那河内村いきものふれあいの里

(5) 地引き網

実施日：7月17日(土)

場 所：阿南市中林町

(6) 和歌山一泊研修の旅

実施日：11月～12月

場 所：和歌山県

(7) 義経伝説の道ウォーク

実施日：1月～3月

場 所：小松島市、徳島市

(8) 草だんごをつくろう

実施日：1月～3月

場 所：博物館実習室

(9) 生物画を描こう

実施日：1月～3月

場 所：博物館実習室

※実施日や内容については、変更することもあります。開催前月には会員みなさまに詳しいご案内をさしあげますのでご確認ください。

2. 広報活動

(1) 博物館の広報印刷物(月催し物案内、企画展チラシ、博物館ニュース、文化の森から)を提供します。

(2) 博物館企画展チラシに会員募集の広告を掲載します。

(3) 20周年記念事業に参画し、友の会活動を紹介します。

ます。

3. 図録の販売印刷

(1) 企画展図録「ヒマラヤ」の印刷・販売をします。

(2) 企画展図録「藍染の表象」の印刷・販売をします。

(3) 「タンポポ解説書」の印刷・販売をします。

4. 友の会会報の原稿募集および発行

会報アワーミュージアムNo.43、44、45を発行し、配布します。

5. 会員募集案内を広報し、新規会員を獲得します。「こどもの日フェスティバル」でもPRします。



## 新スタッフ紹介



● <sup>もり</sup> <sup>みのる</sup> 森 稔 (普及課長)

このたび、阿南第一中学校から転勤してまいりました。

自宅は阿南市桑野町です。博物館の普及業務という全く新しい仕事に戸惑いながらも、館のみなさんの温かいお言葉やご支援のおかげで、少しずつですが前進していている気がします。館の普及行事もそうですが、友の会の行事は、理科の教師をしていた私にとって興味深いものがたくさんあります。友の会の方々と共に、自然や歴史・文化に触れながら事務局の一員として微力ながら努めさせて頂きたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。



### アワーミュージアム 第43号

2010年6月30日発行：徳島県立博物館友の会  
〒770-8070 徳島市八万町向寺山 徳島県立博物館内  
TEL 088-668-3636 FAX 088-668-7197  
E-mail: mus-fukyu@mt.tokushima-ec.ed.jp